

第 56 回建築士会全国大会 しまね大会紹介

7) 島根のまちなみ 1.大森銀山

大森銀山は大田市内に位置する、世界遺産に登録された日本で唯一の鉱山です。ほんの 20 年前までは寂れた町でした。銀鉱山が開発されたのは中世(1300 年代初頭)です。尼子氏が栄えたのも銀のおかげでしょうか。その後豊臣秀吉も支配して掘りまくりました。江戸時代初期がピークでしたが、



採掘量にも陰りが見え始め、銀掘の技術者は佐渡の金山に 大森のまちなみの一部

配置転換になっていきます。ま、それでも採掘は細々と続き、近代的採掘に移り、大正 12 年まで採掘は続きました。ピーク時の人口は 4 万人を超え、山の頂まで住居地が広がっ



ていたようです。平成 19 年に世界遺産に登録されました。

熊谷家：江戸時代の有力商人(重文)

まちなみ

大森の町並みは江戸時代から昭和の建物が町並みの中に併存します。元々武家支配地と商人街が混在していました。代官所跡を皮切りに続くまちなみの中でも武家の屋敷や商人の屋敷がランダムに表れます。昭和初期の建物があったり、



旧医院住宅(江戸期)



旧大森区裁判所

明治の裁判所跡があったり、町屋があったり武家屋敷があったりしていきます。そんな町並みが 1 kmほど続き、ラストの部分はお寺と石橋と石造物群。丸い石橋も島根ではここにしかまともなものはありません。坑道や精練所後はそこからまだ先です。シャトルバスが出ている場合がありますが原則歩きですので、健脚が必要です。龍源治間歩と呼ばれる古い坑道は以前から整備されて公開されていますが、だだっ広い空間を持つ大久保間歩は近年整備されて公開を始めました。一見の価値はありますが、入場料も高い。樹林の中を歩いていけば間歩や精練所跡があって、店などもちらほら整備されています。ゆっくりと歩いて見られることをお勧めします。自然に囲まれた鉱山遺構の様子が体験できると思います。



石橋



大久保間歩